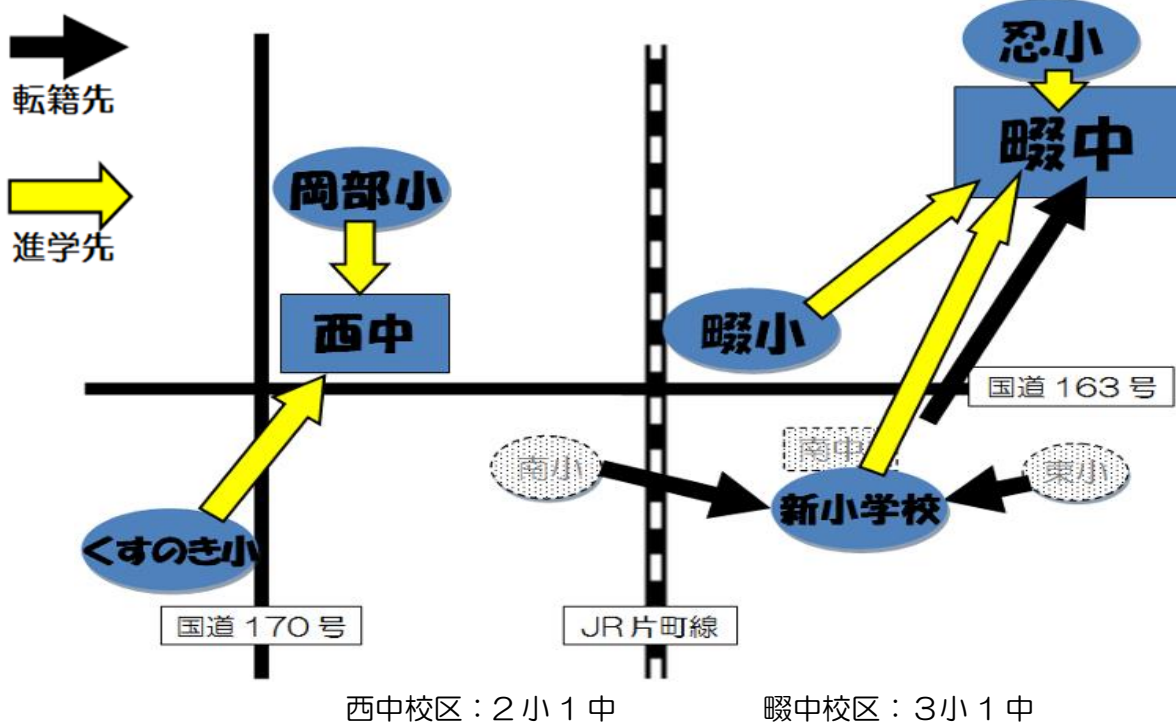


# 【考え得る7つの再編案】

## 1 案

南中廃校、暇小存続  
南小・東小統合校を南中敷地に建設

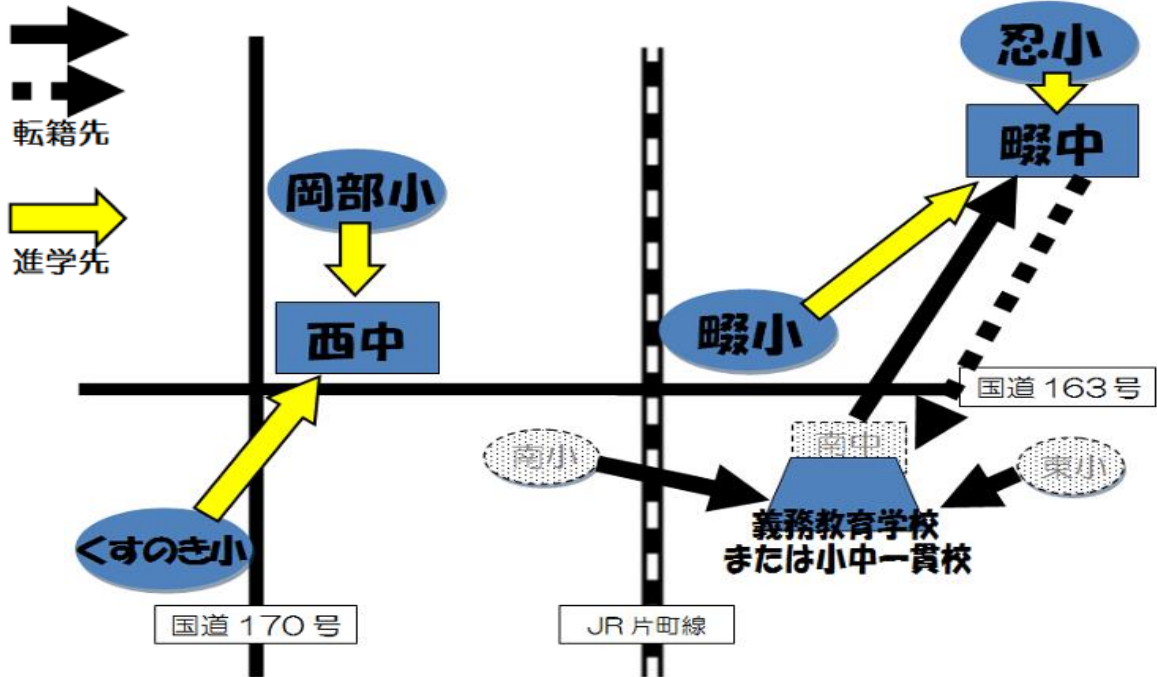


3つの課題	校舎の老朽化解消→○ 校区のねじれ解消→○ 小規模校解消→○	
校区	東小、南小校区→新小学校 中野本町→岡部小、西中 南中校区→暇中校区	
学級数(H32見込み)	新小学校 2学級×6学年=12学級	
予想されるメリット (○)、デメリット (△)		
<p>○より身近な学校に通学できる</p> <p>○過去からの学校間交流が活かせる</p> <p>○3つの課題の解消につながる</p> <p>○163号南側 JR 東側に小学校→防災拠点</p> <p>△工事期間が長引くため、しばらくの間、南小と東小の小規模校が続く</p> <p>△活断層が学校敷地内にある児童の心的負担が続く</p>		
必要な工事	(活断層を避けて) 新小学校新築	
整備内容	校舎新築 プール新築 既存校舎撤去 (南中) 既存プール撤去 (南中) 太陽光発電施設 (蓄電設備) 防犯拠点整備 (マンホールトイレ)	体育館整備 (新築) 校庭貯留撤去新設 既存体育館撤去 (南中) 門、フェンスの改修 防犯拠点整備 (かまどベンチ)
概算整備費用 (税込10%・ 設計監理費込)	新小学校新築 35.2 億円 【35.2 億円+暇小 9.2 億円+忍小 8.5 億円+くすのき小 9.5 億円=62.4 億円】	

2 案		南中廃校、暁小存続、南小・東小→暁小に統合	
3つの課題	校舎の老朽化解消→○ 校区のねじれ解消→○ 小規模校解消→○		
校区	南小、東小→暁小、南中校区→暁中校区、中野本町→岡部小、西中へ		
学級数(H32見込み)	暁小 4~5学級×6学年=27学級→10教室を超える不足が見込まれる		
<p>予想されるメリット (○)、デメリット (△)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○暁小において、多くの児童と接することからより自他を認める心の醸成や切磋琢磨できる場面が増える</li> <li>○ソフト面、ハード面に及び1校あたりに係る予算が拡充できる</li> <li>○3つの課題解消につながる</li> <li>△現状より学校が遠くなる</li> <li>△163号南側でJR東側に学校がなくなる</li> </ul>			
必要な工事	暁小校舎新築		
整備内容	校舎棟新築 (南小+東小分必要面積追加) プール新築 防犯拠点整備 (かまどベンチ) 既存校舎撤去 (暁小) 既存プール撤去 (暁小)	体育館整備 (新築) 防犯拠点整備 (マンホールトイレ) 太陽光発電施設 (蓄電設備) 既存体育館撤去 (暁小) 門、フェンスの改修	
概算整備費用 (税込10%・ 設計監理費込)	暁小新築 35.4 億円+仮設校舎 10 億円=45.4 億円 【45.4 億円+忍小 8.5 億円+くすのき小 9.5 億円 = 63.4 億円】		

# 3案

南中・南小・東小→  
南中敷地に義務教育学校または小中一貫校

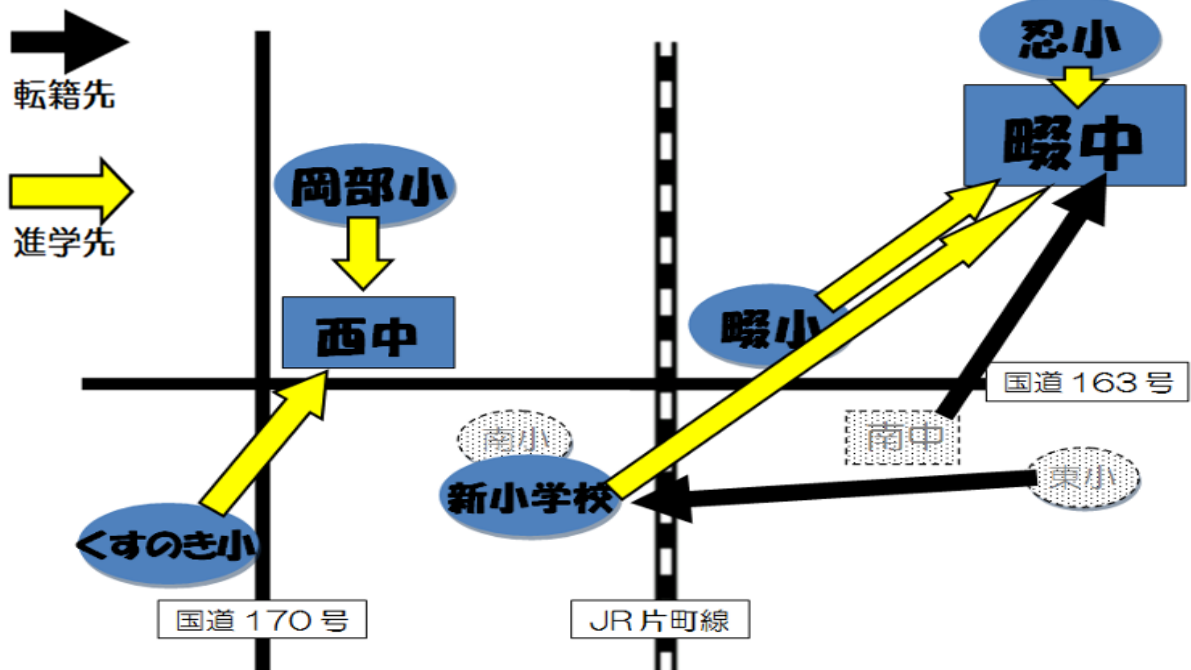


西中校区：2小1中    睨中校区：2小1中    南中校区：義務教育学校または小中一貫校

3つの課題	校舎の老朽化解消→○ 校区のねじれ解消→○ 小規模校解消→×	
校区	南小、東小、南中→義務教育学校または小中一貫校、中野本町→岡部小	
学級数(H32見込み)	義務教育学校 2学級×9学年=18学級	
予想されるメリット(○)、デメリット(△)		
○より身近な学校に通学できる ○小中の段差解消 ○163号南側 JR 東側に小中学校→防災拠点 ○ソフト面、ハード面に及び1校あたりに係る予算が拡充できる △活断層が学校にある児童、生徒の心的負担が続く      △南中校区の転籍 △教職員の免許について(義務教育学校)      △実質の小規模校の解消にならない		
必要な工事	(活断層を避けて) 義務教育学校または小中一貫校 新築	
整備内容	校舎新築(義務教育学校) プール新築 防犯拠点整備(マンホールトイレ) 太陽光発電施設(蓄電設備) 既存体育館撤去(南中) 門、フェンスの改修	体育館整備(新築) 校庭貯留撤去新設 防犯拠点整備(かまどベンチ) 既存校舎撤去(南中) 既存プール撤去(南中)
概算整備費用 (税込10%・ 設計監理費込)	義務教育学校または小中一貫校 新築 52.7億円 【52.7億円+睨小 9.2億円+忍小 8.5億円+くすのき小 9.5億円=79.9億円】	

# 4案

南小、東小→南小敷地に新小学校（東小・南小統合）  
南中廃校

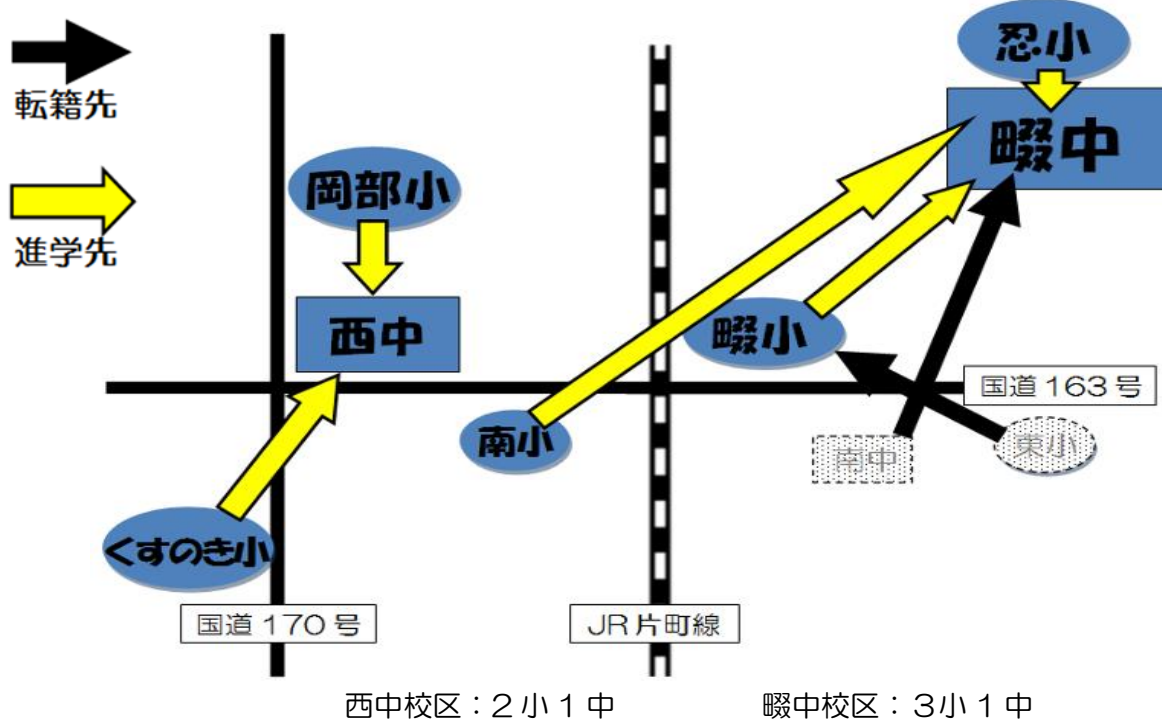


西中校区：2小1中

睨中校区：3小1中

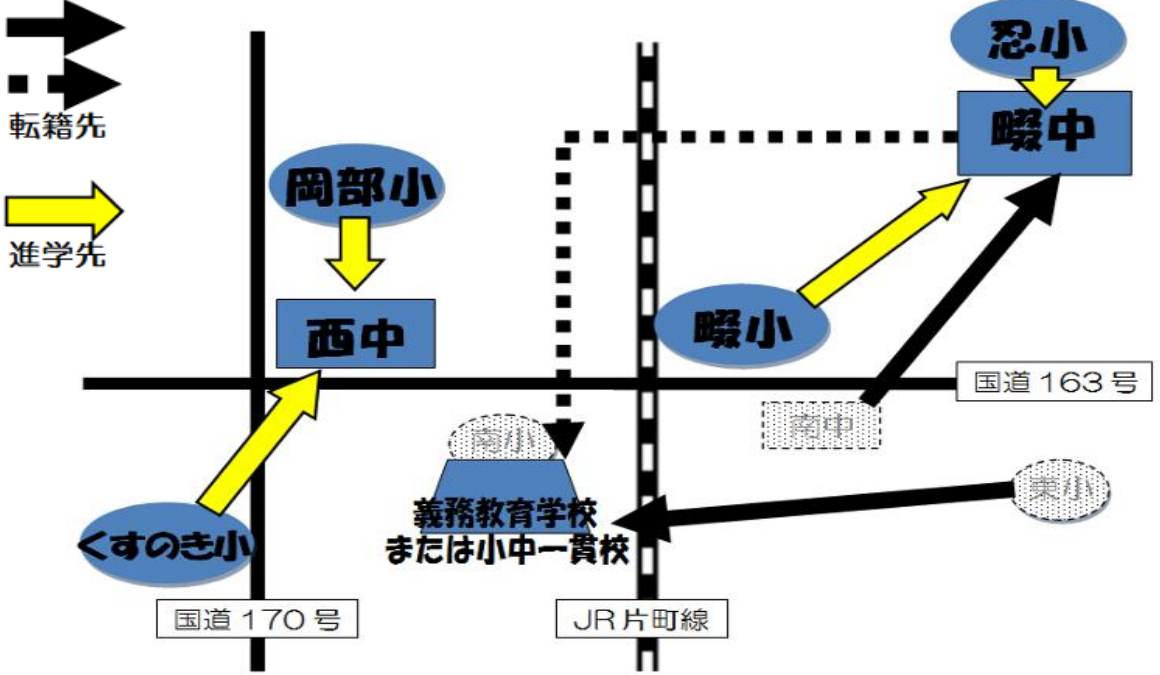
# 5案

南小そのまま小規模のまま存続させ、東小学校は暇小に統合、南中廃校



3つの課題	校舎の老朽化解消→○ 校区のねじれ解消→○ 小規模校解消→×
校区	東小→暇小、南小はそのまま存続、中野本町→岡部小、西中
学級数(H32見込み)	南小 1学級×6学年=6学級、暇小 3~4学級×6学年=22学級
予想されるメリット(○)、デメリット(△)	
<p>○より身近な学校に通学できる</p> <p>○ソフト面、ハード面に及び1校あたりに係る予算が拡充できる</p> <p>○工事が少ない</p> <p>○小規模校としての特色が作れる</p> <p>△南小の将来について課題</p> <p>△当該地域の人口増加策が急務</p>	
必要な工事	暇小改修に加え増築工事
整備内容	<p>(校舎棟増築(暇中小中連携棟同規模))</p> <p>校舎の老朽化対策(大規模改修) (渡り廊下設置)</p> <p>照明LED化 トイレ改修 ICT環境整備</p> <p>空調設備の導入 プール新設 防犯拠点整備(マンホールトイレ)</p> <p>防犯拠点整備(かまどベンチ) 太陽光発電施設(蓄電設備)</p> <p>既存プール撤去(南小) 門、フェンスの改修</p>
概算整備費用 (税込10%・ 設計監理費込)	<p>南小改修 7.9億円+暇小増築 4.2億円=12.1億円</p> <p>【12.1億円+暇小 9.2億円+忍小 8.5億円+くすのき小 9.5億円=39.3億円】</p>

<h1 style="margin: 0;">6案</h1>	南中・南小・東小→ 南小敷地に義務教育学校または小中一貫校
--------------------------------	----------------------------------

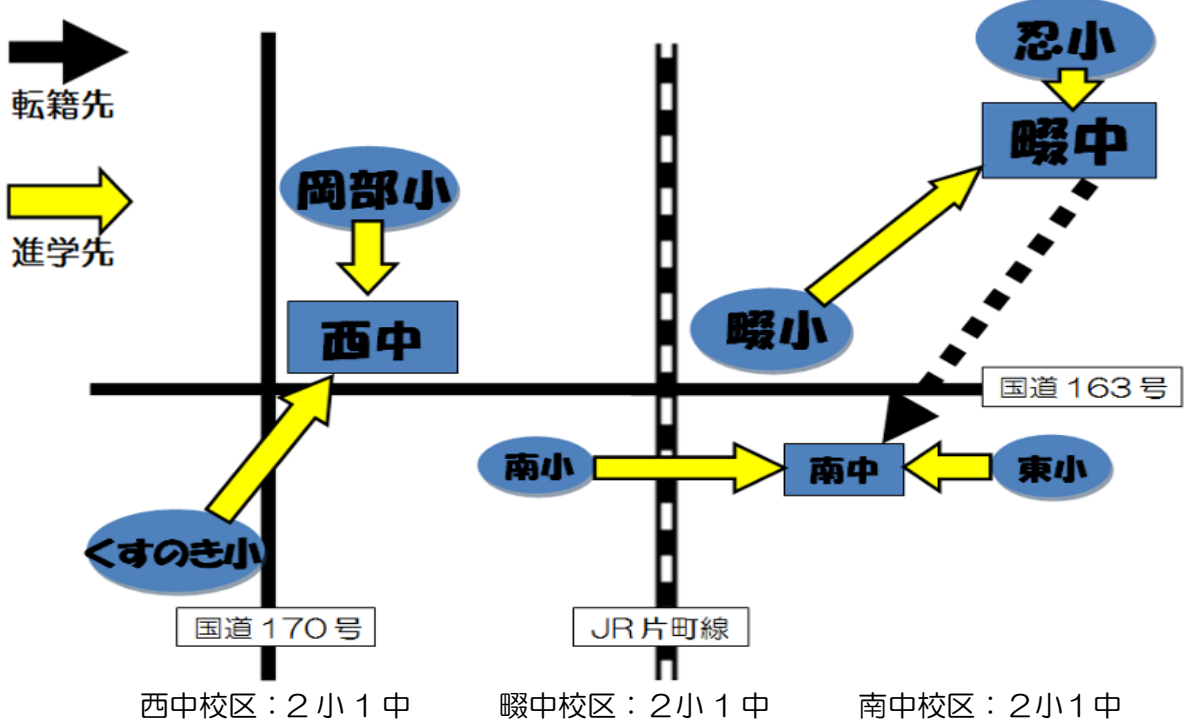


西中校区：2小1中    暖中校区：2小1中    南中校区：義務教育学校または小中一貫校

3つの課題	校舎の老朽化解消→○ 校区のねじれ解消→○ 小規模校解消→×		
校区	南小、東小、南中→義務教育学校または小中一貫校、中野本町→岡部小		
学級数(H32見込み)	義務教育学校 2学級×9学年=18学級		
予想されるメリット (○)、デメリット (△)			
○教育センターとの連携がより図れる                      ○小中の段差解消 ○163号線南側 JR 東側に小中学校→防災拠点      ○より身近な学校に通学できる ○ソフト面、ハード面に及ぶ1校あたりに係る予算が拡充できる △南中校区の転籍    △実質の小規模校の解消にならない △教職員の免許について (義務教育学校)                      △東小から踏切を超えなければ通学できない △運動場が狭小のため、体育の授業やクラブ活動に支障がある			
必要な工事	南小敷地に義務教育学校または小中一貫校 新築		
整備内容	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;">                             校舎新築                              プール新築                              防犯拠点整備 (マンホールトイレ)                              太陽光発電施設 (蓄電設備)                              既存体育館撤去 (南小)                              門、フェンスの改修                         </td> <td style="width: 50%; border: none;">                             体育館整備 (新築)                              校舎の老朽化対策 (大規模改修)                              防犯拠点整備 (かまどベンチ)                              既存校舎撤去 (南小)                              既存プール撤去 (南小)                         </td> </tr> </table>	校舎新築 プール新築 防犯拠点整備 (マンホールトイレ) 太陽光発電施設 (蓄電設備) 既存体育館撤去 (南小) 門、フェンスの改修	体育館整備 (新築) 校舎の老朽化対策 (大規模改修) 防犯拠点整備 (かまどベンチ) 既存校舎撤去 (南小) 既存プール撤去 (南小)
校舎新築 プール新築 防犯拠点整備 (マンホールトイレ) 太陽光発電施設 (蓄電設備) 既存体育館撤去 (南小) 門、フェンスの改修	体育館整備 (新築) 校舎の老朽化対策 (大規模改修) 防犯拠点整備 (かまどベンチ) 既存校舎撤去 (南小) 既存プール撤去 (南小)		
概算整備費用 (税込10%・設計監理費込)	義務教育学校または小中一貫校新築 48.1 億円+仮設校舎 10 億円=58.1 億円 【58.1 億円+暖小 9.2 億円+忍小 8.5 億円+くすのき小 9.5 億円=85.3 億円】		

# 7案

将来の人口増を見据え、南小、東小存続  
南中再開校



3つの課題      校舎の老朽化解消→○ 校区のねじれ解消→○ 小規模校解消→×

校区      現状どおり 南小、東小がそのまま存続

学級数(H32見込み)      南小 1学級×6学年=6学級 東小 1~2学級×6学年=8学級  
南中 2学級×3学年=6学級

予想されるメリット (○)、デメリット (△)

○より身近な学校に通学できる

○163号南側でJR東側に中学校→防災拠点

△南中校区の転籍

△小規模校の存続

△活断層が学校にある生徒の心的負担が続く

△老朽化対策の長期化

必要な工事      (活断層を避けて) 南中新築、暇小、忍小、くすのき小、南小、東小改修工事

整備内容

概算整備費用

(税込10%・  
設計監理費込)

【南中新築 40.9億円+南小改修 7.9億円+忍小 8.5億円+くすのき小 9.5億円  
+東小改修 8.5億円+暇小 9.2億円 = 84.5億円】

【教育環境整備計画の方向性を見出す諸要素】

南中敷地内活断層調査	南中敷地に活断層があることから ・校舎を建てるなら活断層を避けて建設 ・学校敷地内に活断層がある児童生徒の心的負担を考慮
公共施設等劣化診断調査	劣化度診断の状況評価においては、深刻な指摘は見当たらない。 学校施設において、改修を行った岡部小、躰中、西中以外の学校において、近々に改築、改修の対象となる。
四條躰市教育環境整備に関するアンケート調査（5,000人アンケート）	より良い教育環境として望むこと ①安心・安全な校舎 ②教員の指導力 ③防犯対策 ④通学距離 ⑤ 道徳教育 計画の目的で賛同できる順位 ①老朽化した校舎の改修 ②小規模校の解消 ③校区のねじれ解消 計画に対する不安に思うこと ①通学路の遠距離化 ②転籍による心理的負担 ③通学路の安全 ④ 転籍による家計への負担
四條躰中学校における平成30年度学校生活アンケート及び生徒、保護者との意見交換会	躰中への転籍に係る学校現場、市長部局、市教委の事前対応ならびに転籍後の対処等のなか、効果的な部分を今後の学校再編に活用
必要な工事	計画に関わらず、躰小、忍小、くすのき小の大規模改修の必要あり
小規模校の定義	小中学校とともに、学校教育法施行規則により、『学校の学級数は、12学級以上18学級以下』が標準とされる。このことから、12学級未満の学校を小規模校とする

	南中	南小敷地利用	南中敷地利用	学校再編の概要	案	
7案の整理	廃校	しない	する	新小学校（東小+南小）	1	
			しない	南小、東小→躰小に統合	2	
			する	小中一貫校または義務教育学校（南中+東小+南小）	3	
		する	しない	する	新小学校（東小+南小）	4
				しない	南小存続、東小を躰小に統合	5
				する	小中一貫校または義務教育学校（南中+東小+南小）	6
	再開校	する	する	南小、東小そのまま存続	7	